

8 自校の道徳通信を作成した先生もいました

「道徳教育通信」を参考あるいは活用して、独自の通信を作成して発行した先生もいました。例えば、下の「道徳教育だより」は、B4判の左半分に道徳の授業実践の内容や子供のワークシート記述を紹介し、右半分に「道徳教育通信」の中から役割演技についての内容をコピーして紹介しています。


道徳教育だより

群岡小学校道徳教師
平成11年11月19日

学校だより、事務だよりと共に、道徳教育だよりというものを発行してみました。もしかしら、お目にかかるのは、これが最初で最後かもしれません。

実は、出張で研修してきた中に、先日の「いじめ対策協議会」で話し合われた、「本音を聞く」という方法や子ども達どうしの交流を深める方法に使えそうな資料があったのでお知らせしようと考えたわけなのです。

それが、右の資料です。なかでも「役割演技のウォーミングアップ」のようなものは、エンカウンター（心を心の交流）の導入として使った学級活動例を読んだことがあります。役割演技自体、道徳の授業において大変効果的なものでありますが、なかなか取っ手しづらなものでありません。取っ手しづらなだけでなく、環境にできる交流の場づくりとして、もしよかつたら、試してみたい。（私もやってみようと考えています。）蛇足ですが、来週の日を考慮に入れて、2年生では、4-②（主として集団や社会とかかわりに関すること）のテーマで道徳の授業を行いました。身近なところで、お家の人を対象に、決して感謝の気持ちを手紙に書きました。年間指導計画を参考に、学習活動や行事に合わせて道徳の授業をしてみると、効果的なので、結構楽しいですよ。（どうしても案じかないと思う人は、来年、私のように道徳の出張づけになるとこんな気持ちになるかもしれません。）みなさんの実践例もぜひ教えてください。お待ちしております。



役割演技を使って授業をしよう

道徳の授業のとき子供たちが本音で話し合えなかったり、登場人物の心情を深く理解できなかったことはありませんか。役割演技を導入すると子供の多様な価値観が表れて、話し合いが深まったり、内面化が図られたりします。

一般的に次のように役割演技を行います。

1. 簡単なウォーミングアップをします。
2. 役割演技をするための必要な条件を設定します。
3. 役割やその場の状況に即して即興的に演技を開始します。
4. 演技を中断して話し合ったり、条件を加えたりします。
5. 演技を再開します。
6. 役割を交代して行います。
7. 演技を終了して話し合いをします。

* 読み物資料に出てくる登場人物の役によって実施することが多いのですが、役割演技だけで授業を構成することもできます。

こんなことに注意しましょう。

1. ウォーミングアップを大切にしましょう。
 - 役割演技の直前に行くことも大切ですが、学級活動や朝の会、帰りの会などを利用してウォーミングアップを計画的に行っていくと、より効果があります。
2. 演技がうまくいかなくても、ねらいに関係ないことを理解させておきましょう。
3. 教師も積極的な表現に参加しましょう。
4. 日ごろから劇的な表現を楽しむ環境を作っておきましょう。

詳しくは、江崎照雄氏の著書「役割演技ハンドブック」（明治図書）が参考になります。

＜ウォーミングアップの例＞

1. ミラリング
- ・ 二人組で向かい合い、片方が鏡の役になる。片方の動作をすべてうつす。
2. ジェスチャー
- ・ 二人組で、片方がジェスチャーをして、もう一方がその内容をあてる。
3. サールミラー
- ・ グループをつくり、一人が真中に立ち、ある動作をする。周りの者は、それをうつす動作をする。主役を交代して行う。

9 「道徳教育通信」の課題を明確にしました

「道徳教育通信」の有効性は明らかになってきましたが、アンケート調査から様々な課題も残されました。寄せられた課題や要望は次の通りです。

- 授業で直接使えるような資料とともに、実際の指導案や実践報告がほしい。
- 授業内容についての教師や子供の意見、感想等がほしい。
- 授業の成功例や失敗例など、具体的な例がたくさんあると実践してみようという気になる。
- 新しい道徳教育に関する情報がほしい。
- 読み手が身構えることがない、易しい内容にしてほしい。
- 話し合いの深め方、練り上げ方が難しいので、その点がもっと分かればよい。
- 保護者への通信も想定したものを考えたい。
- 提示の仕方、発行のタイミング等、全体で共通理解を図る必要がある。
- ただ発行するのではなく、一言説明することも必要である。
- ファイルを配布して通信を保存する環境づくりをすることが大切である。